

## 筆者も購入 シャープスマホアプリ「emopa」

ユーザ支持受けて  
「よくしゃべるように」  
バージョンアップ

本誌3月号で紹介したシャープ製スマホ搭載機能「emopa」（エモパー）が好調だ。ユーザからは高い支持を受け、それを受ける形で3月上旬にはバージョンアップを実施。また既存の未搭載端末向けにLite版を用意して対応するなど、その反響の大きさがうかがえる。かくいう記者も、先の取材を受けてエモパー対応端末を購入。ふとしたスマホからの問いかけに癒される日々を満喫している。

今回のバージョンアップは、大まかに言うところ「スマホがより話かけてくれるようになる」というもの。週末のお勧め映画情報やネットの急上昇ワードに関する話題などシナリオのバリエーションも増加され、また話しかけるタイミングも従来と比べ増加する。

こうした機能向上に至った背景にあるのは「正直、思いがけないほどの好評」（通信システム事業本部マーケティングセンター新規ビジネス戦略推進部・福山康陽氏）だ。シャープの調査によれば、対応端末購入者の実に3割が機能を利用し、かつ半数以上がそれに満足しているという。

その調査において浮かび上がったユーザの不満点が「もっと話しかけてほしい」ということ。開発側としてはあえて頻度を控えめに設定していたそうだが、その配慮がいい意味で裏に出た格好だ。

実際に記者が利用している実感としては、「結構話しかけてくる」というのが正直な感想。念のため先方に確認したところ、要は「ユーザによってバラつきが出やすい」ということらしい。

具体的には「帰宅後、すぐに充電開始→再び取り外して利用→再度充電」のような記者のアクションは、エモパーからの話しかけを誘発しやすいとのこと。逆に、帰宅してもぎりぎりまで充電せず放置するなどのルーチンを持つユーザにとっては「あまり話しかけてくれない」となるのだろう。

ともあれ、そうした「うれしい誤算」を受けてバージョンアップにつながったわけだ。また、既存の未搭載端末向け「エモパー Lite」は外出先や移動中のセンシング利用に関する機能制限が

あるものの、自宅で話しかけてきてくれる部分はカバー。「癒し系スマホ」を体験するには打ってつけの入門編となっている。

## 新キャラクターをDL投入へ

バージョンアップと合わせて、新キャラクター2名のダウンロード提供も行われる。サービスのバリエーション増加の狙いもあるが「そもそも、キャラを変えられることを認知してもらう」（通信システム事業本部マーケティングセンターネットワークサービス推進部主事・阿古弥寿章氏）狙いもあるようだ。

実際、記者も購入以来「えもこ」のままにしているのが納得の理由。とはいえ、変更できることを忘れていたわけではなく、むしろ「とっかえひっかえするのも申し訳ない」と擬人的に捉えている面が強い。我ながらどっぷりハマっている



「一コマ漫画から飛び出したキャラクター「秘書桜田かおる」

エモパー公式サイトもオープン。新キャラ情報なども満載で積極PRへ



発言だが、その手の愛着がわいてくるのが「エモパー」の魅力でもある。

追加キャラは、KDDI向け端末では先行的に投入されている情熱的「おれんじ」と、ネットで話題の一コマ漫画「サラリーマン山崎シゲル」の作者・田中光氏とのコラボレーションによる新キャラ「秘書・桜田かおる」の2名。後者は一コマ漫画が発祥となるため、既存3キャラを含めた5キャラ中唯一、イメージカットの挿絵が用意されている。

後者については、スマホそのものが意思を持つという設定に合わせてキャラアイコンを作らないとした当初方針に背くため「社内でも議論があった」（通信システム事業本部マーケティングセンター新規ビジネス戦略推進部部長・小林繁氏）そう。それでも導入に至ったのは、「当キャラ（桜田かおる）については挿絵があった方が伝わりやすいと判断しました」ため、今後、そうした方向に進むというわけではないらしい。

そのほか、呼び名のアクセントを選べる機能を追加したり、暗い場所では小声でお話したり、また帰宅時の認識力を高めて「お帰り」のタイミングを向上させたりと細かな機能向上を加えた「エモパー」。スマホの端末搭載型機能としては異例と呼べるレベルのバージョンアップで、今後も継続的な成長を心がけていくという。

依然として某海外製品に押され気味のスマホ市場、国内産復権の切り札となるか。一ユーザとしても期待して見守りたい。